

# 8月の需要期出荷を目指した花卉栽培マニュアルと栽培暦

福井県坂井農林総合事務所  
坂井地区園芸タウン推進協議会

## 1 品目と栽培暦

・8月開花の主な品目は、キク、アスター、トルコギキョウ、ヒマワリなど。

時期	栽培場所	3月			4月			5月			6月			7月			8月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
トルコギキョウ (季咲き)	ハウス					◎	←	◎											
アスター (季咲き)	露地				○			◎											
キク (夏秋ギク)	露地		○	←	○	◎	←	◎											
ヒマワリ (55日タイプ)	露地																		

○播種・挿し芽 ◎定植 ■収穫

## 2 品目ごとの栽培マニュアル

### (1) トルコギキョウ（季咲き栽培）

- ・発芽時のポイント：発芽適温は 20～25℃。種子は吸水後、15℃以下の低温や 35℃以上の高温に遭遇すると、発芽不良になる。
- ・育苗時のポイント：本葉2対（4枚）以上までの間に昼温 30℃以上、夜温 20℃以上の高温に遭遇するとロゼット化するため、高温に遭遇しないように管理する。断根や乾燥が重なると、さらにロゼット化しやすくなるため、乾燥させないように管理する。
- ・定植後のポイント：高温時カルシウム欠乏が出やすいため、換気を行い、軟弱な生育をさせない。
- ・出蕾後のポイント：頂花出蕾後は、灌水を控えて、硬めに仕上げる。

### (2) アスター

- ・品種選びのポイント：萎凋病に罹病しやすいため、フザリウム菌への耐性品種を選ぶとよい。
- ・育苗時のポイント：15℃以下や 25℃以上では極端に発芽率が低下するため、18～20℃を保つ。過湿で発芽不良になるため、用土の湿り具合をまめに確認する。
- ・圃場選びのポイント：キク科植物との連作は避ける。
- ・電照栽培のポイント：電照は、定植直後から開始する。

### (3) 夏秋ギク

- ・親株管理のポイント：1～2月から保温を開始し、3月には挿し苗を確保する。
- ・圃場準備のポイント：明渠やサブソイラー等で排水対策を行ってから畝立てする。
- ・挿し穂のポイント：定植が遅くなると草丈確保が困難になるため、計画的に3月から挿し穂を始める。
- ・定植後のポイント：5月以降、排水不良の圃場では灰色かび病や白さび病の発生が多く

なるため、雨天後は排水を確認するとともに、定期的の下葉を掻き取り、殺菌剤の防除を行う。

- ・高温時のポイント：6月下旬の花芽分化期以降の高温遭遇は、開花遅延につながるため、頭上灌水や畝間灌水を行い、地温や植物体温度の低下に努める。

#### (4) ヒマワリ

- ・品種選びのポイント：カタログで、作型に適した開花日数の品種を選ぶ。
- ・施肥のポイント：吸肥力が強いいため、施肥量は少なくする。無肥料栽培でも、土が肥えていると茎が太くなるので注意。
- ・播種後のポイント生育初期にはしっかり灌水し、徐々に灌水を控える。

### 3 病虫害防除のポイント

- ・切花は、葉も花も蕾も商品となるため、積極的に防除を行う。
- ・光防虫器はタバコガ類やヨトウムシ類、アオムシなどを誘殺する効果がある。また、アザミウマ類やアブラムシ類も誘殺する効果がある。殺虫剤の散布回数や散布時間を3割程度削減できるため、4月の定植後から使用する。
- ・光防虫器での防除効果をよく観察し、防除しきれない害虫には必要に応じて殺虫剤を散布して対処する。
- ・光防虫器で効果を期待しにくい害虫には、浸透移行性の薬剤を発生初期に散布し防除する。
- ・病気は、発生前に定期的に予防的効果を持つ殺菌剤を使用する。
- ・病気やダニ類は、下葉に少発であっても、将来蔓延する可能性があるため、見かけた時点で即時防除を行う。
- ・露地品目は展着剤を使用して、効果を長持ちさせる。
- ・5月以降、多湿と高温が重なると、灰色かび病や白さび病が増えるため、排水対策を行う。
- ・6月の発蕾以降は、アザミウマ類やアザミウマ類が増加するため、定期的の新党移行性のある殺虫剤を散布する。